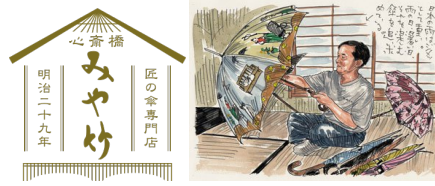


# 心齋橋みや竹 匠の傘 総合マニュアル



## 目次

はじめに	.....	1
傘の各部位の名前と取扱説明	.....	2
ハンドル/ろくろ/はじき/露先と玉留め/ネーム		
中棒 (シャフト) /止め釘/天紙・菊座・陣笠		
タッセル (房) /親骨と受骨・ダボ/小間(コマ)		
傘の心得とマナー	.....	15
傘のお手入れ (基本編)	.....	17
傘のお手入れ (上級編)	.....	22
ハンドルの基礎知識	.....	26
【付録】中棒のテープって何?	.....	29
困ったときは/お修理のご依頼	.....	30

## \*\*\*はじめに\*\*\*

職人が丹精込めて作り上げる傘は、使い込むほどに愛着が湧き出でる素晴らしいものですが、ご使用にあたっては、注意すべきことや心得ておくべきことが色々あります。

ところが、今までの販売店の「取扱説明」はあまりに不親切で、詳細を系統立てて解説することの必要性を感じていました。このマニュアルでは、当店でお求めいただいた傘が、お客様に永く寄り添うことができますよう、わかり易くご説明をさせていただきます。

※ここでは雨傘のご説明が主となります。日傘も基本的構造は同じですが、お手入れなどが異なります。折畳傘の賢い畳み方は別の方法で解説します。ご不明な点はどうぞお尋ねください。



## 傘がとどいたら

傘が届きましたら、まず色合いや手触りをご確認ください。もしイメージの相違があれば、すぐにお申し出ください。また、傘は曇った屋外で使用するものです。部屋の中では派手めにみえても、実際はもっと落ち着いた色であることも多いですから、できれば曇天か、または少し日が沈みかけた時刻に屋外で確認してください。

傘を軽くさばいて骨と骨の絡みがないことを確かめてから、静かに何回か開閉を試みてください。良い傘であれば、なんの抵抗もなく開閉ができるはずですが、もしひっかかりや違和感があれば、すぐにお申し出下さい。

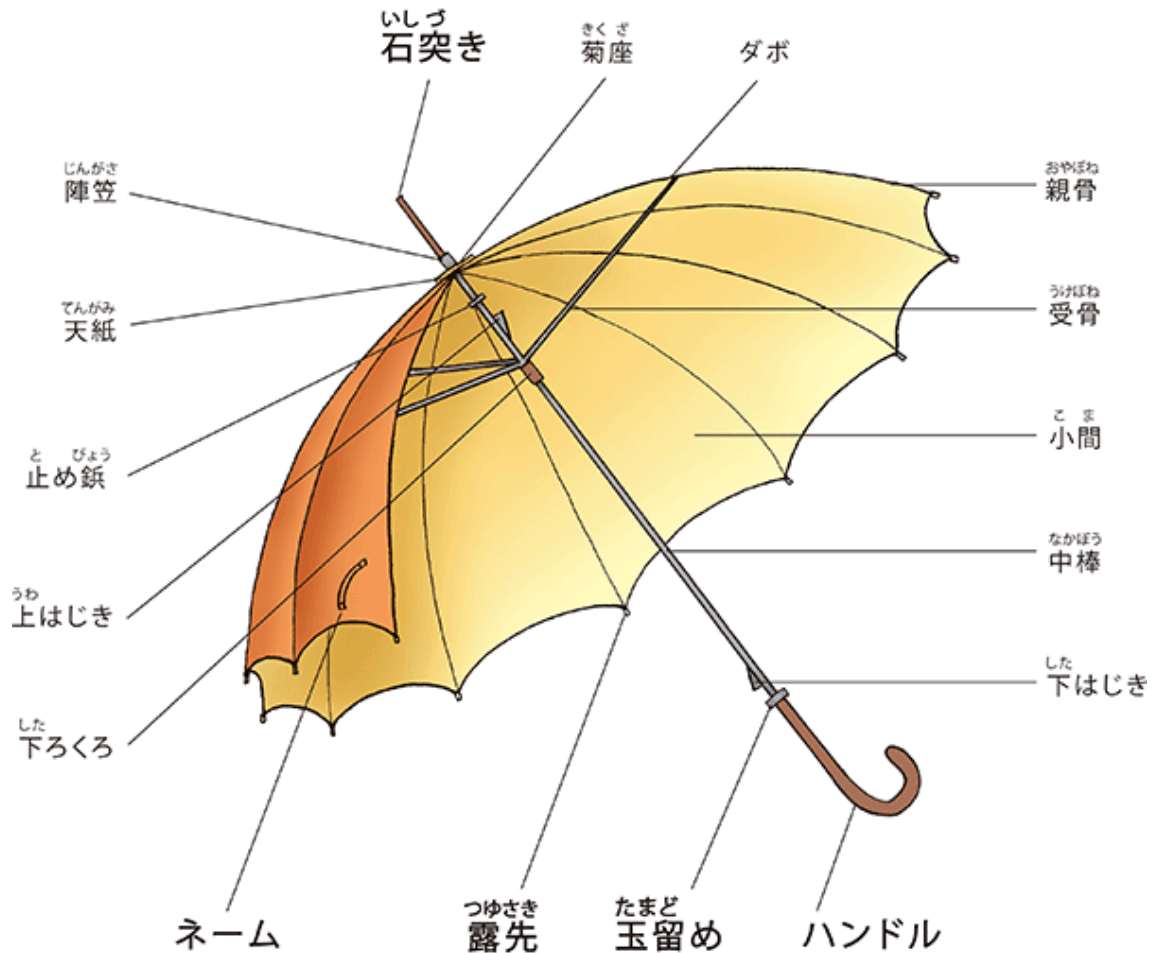


## 傘も生きています

私達がお届けしたい傘は、10年たっても時代遅れとならずに更に価値を増す傘です。ただ、壊れない傘というのはこの世には存在しません。人間が病気になったり怪我をしたりするように、傘達も不具合を訴えることがあります。それは傘が活着している証し。

傘の生い立ちを良く知る私達が「かかりつけ医」となり、できる限りのサポートをします。傘選びと同じく店選びも大事。知識があり信頼できる店で求めれば匠の傘は永年のパートナーとなります。この度は心齋橋みや竹をお選び頂き誠にありがとうございます。

## 傘の各部位の名前と取扱説明



### ハンドル

傘の各部位を人間の姿に例えれば『ハンドル(手元)は顔、玉留は襟元、生地は衣服、石突は足元』といわれます。顔であるハンドルは、その人(傘)の特徴や人柄が端的に表れるパーツです。こうしたイメージで捉えると、傘選びはより楽しく、より吟味するようになり、それだけ所有観が高まります。安易に忘れ物をするこも なくなるでしょう。

この部位には様々な呼び名があります。①柄(え)②手元(てもと)③持ち手④取っ手③ハンドル。①の「柄」は図柄や絵柄という柄(がら=デザイン)と誤解されることがあり、②の「手元」もお箸や手許(てもと=近く)にとられることもありますので、私は「ハンドル」と呼んでいただくことを推奨しています。販売者・製造者の玄人筋では「手元」と呼ぶこも多いのですが、当店では商品詳細欄は「ハンドル」で統一して表記しております。

ハンドルの種類別の解説はこちらをご覧ください⇒ [■ハンドルの基礎知識\(P.26\)](#)

天然樹には、表面の傷や窪み・凹み、割れがございます。またエッジが綺麗な直線でもありませんが、これは型にはめた人工のハンドルではない証しです。永年、使い込むほどに手に馴染み艶のある表情をみせてくれるのも、天然樹の味わいです。

婦人用と紳士用で行程が若干異なります。婦人用”小曲り”は、焼きだまという器具を用いるので、腕作業で出来ますが、紳士用”大曲り”は、熱した樹木を固定して一気呵成に『腰』で曲げるのです。勘だけを頼りに、全身のパワーで1本1本曲げるわけですから、相当の体力と経験が要求されます。

### 【取り扱い注意点】

匠の傘の多くには天然樹が採用されています。天然樹のハンドルにとって一番居心地の悪いところは「雨のあたるところ、車の中、直射日光のあたるところ」です。特に屋外や車内に放置するようなスタイルで保管しておくともみるみる寿命が縮まります。洋服と同じように愛情をもって屋内の日の当たらないところで保管してください。

また「曲げ物」であることも忘れないで下さい。下駄箱やカウンターにハンドル先だけを支点として引掛けた状態で保管をすると、曲がりに戻ってしまう(ハンドルがあくびする)ことがあります。保管に関しては充分にご留意ください。



※悪い保管例(下駄箱に引っ掛ける)



※紐で軽く縛っておけば安心

長く御使用にならない場合は、紐等で軽く曲がり部分をしばっておかれれば、良好な状態をいつまでも保持できます。

## ろくろ

陶芸などで使う「轆轤」を思い浮かべる方も多いですが、広義で「ロータリー＝放射状に広がる沢山のものが集結している中心」という意味も含まれますので、傘の場合はこれに該当します。駅前のロータリーをイメージしていただくとわかり易いでしょう。



上ろくろ

下ろくろ

だきがね(抱き針)を結んだ先

上ろくろは親骨を纏め、下ろくろは受け骨を纏め、それぞれ傘にとって非常に重要な役割を果たしています。集結した骨の根元は「抱き針」或いは「だきがね」と呼ばれるワイヤーで括られています。針金を結んだ先が上下のろくろから出ているのはこのためです。

下ろくろでは、結んだ端が尖ってむき出しになっていると怪我をしやすいので、樹脂のキャップを被せたり、ろくろ巻き(布)の内側に隠したりと気配りがされています。

### 【取り扱い注意点】

ご使用後に水きりをする時に、くるくると回しながらきることは絶対にやめてください。上下のろくろに過重な負担がかかり、ろくろに集まった骨を纏めているワイヤーが切れればらける原因となります。⇒ [傘の正しい水切り方法\(P.18\)](#)

## はじき

はじきは中棒(シャフト)に刻まれた溝に組み込まれているパーツで、「上(うわ)はじき」は傘が開いて落ちてこない状態を、「下(した)はじき」は閉じた傘が広がらず纏まった状態を、それぞれキープするための必須パーツです。それぞれに必要なバネ力が違いますので、形状や太さ・厚さを変えていることもあります。



▲板はじき

▲線はじき

横には鉄の穴ができます▲

一般的なものでは板状になった「板はじき」が採用されているのですが、木棒を用いた高級傘では、ピアノ線等に使用されている鋼材を手曲げて線状にした精緻な「線はじき」が使われています。線はじきの側面には、はじきを中棒に組み込むために打ち付けたごく小さなピョウ(鉄)の穴の窪みが必ずあります。

#### 【取り扱い注意点】

職人傘は自動で開くジャンプ式は少なく、殆どが「手開き」です。注意をせねばならないのは、『はじき』だけを押して閉じようとする指を挟んでしまうことです。親指と人差し指で『ロクロ』をしっかり支えながら中指で『はじき』を押し閉じてください。



親指人差し指でろくろを支え、中指ではじきを押す 一部の傘に採用されている安全ろくろ

最近では安全ろくろといってカバーのついている様式もありますが、匠の傘や一般的な手開きの傘にはカバーはありませんので、基本的な『はじき』の扱いをぜひマスターしてください。※ちなみに安全ロクロは逆に押したままだと、傘がとまらず固定できない現象がでますので、別の意味でご注意ください。

## 露先と玉留め

露先(つゆさき)とは、雨露が骨に沿って落ちていく先端という意味で、布と骨が結び付けられている箇所を指します。折畳傘では布が骨に直づけされていますが、長傘では小さなパーツにまず傘生地を縫いとめ、それを骨先に差し込んでいます。一般的には、このパーツ自体を「露先(つゆさき)」と呼んでいます。

露先は市販の修理キットもありDIYで作業もできますが、蠟びきした「とも色」の糸が必要ですし、おなじ形状のものでないと見た目に不揃いになりますので、職場修理をご依頼いただいたほうが、コストはかかりますが満足度の高いお修理がご提供できます。



露先

露先をまとめる「たま留め」

露先のあたまは概ね球状になっていますので、球(玉)を纏めるパーツを「玉留め(たまどめ)」と呼びます。玉留めはハンドル底部に組み込まれています。玉留め付き傘は殆どが紳士傘で、婦人傘用は稀です。これはデザインバランス的に婦人用の細めのハンドルにつけるのが難しいことが理由です。

ただ個人的には、婦人傘でもぜひ玉留め方式を進んで採用すべきだと考えます。業界のイノベーションが待たれるところです。

「玉留め(たまどめ)」の動きが固くなった場合、クレ 556 等の潤滑剤か、或いは鉛筆の芯を粉状にしたもの少量塗ってみると改善されることがあります。くれぐれも生地が汚れないよう注意してください。玉留めに凹みが生じている場合はこの方法では治りませんので玉留めを含めたハンドルユニット全体の交換修理が必要になります。



修理のご依頼(P.31)

## ネーム

傘でネームといえば胴体をぐるっと回して纏めるバンドのことを指します。諸説ありますが、生地は加工がされていて記名ができなかったため、このバンドの部分であれば記名がし易いということで、そのまま「ネーム」と呼ばれるようになったと言われています。

たかが巻き紐、と軽視してはいけません。この採寸次第で傘全体がだらしない巻き姿になったり、逆に締め付けられて窮屈な感じになったり、イメージを台無しにします。小さなパーツであっても、傘のフォルムを左右する大切な要素といえるでしょう。



くちネーム

胴ネーム

ネームには「胴ネーム」「くちネーム」の二種類があり、前者は傘生地を束ねて纏め、後者は玉留めのない傘が開かないように露先を括り、それぞれ大事な役目を担っています。ネームのボタンは一般的にはホック式が多いですが、ボタン&リングの組み合わせ様式のクラシックなスタイルも人気が高く、匠の傘で採用されることが多いです。

### 【取り扱い注意点】

丸いところは「釦（ボタン＝ネームボタン）」、かける輪がカン、輪から出ている小さな生地部分がツマミです。ツマミはネーム紐を引っ張って、ストレスなくはずす為にあります。写真右のように、ツマミを垂直方向にしたまま、無理矢理にはずすとボタンがはずれやすくなりますので要注意です。






## 中棒(シャフト)

明治の文明開化で日本にもたらされた蝙蝠(こうもり)傘。大正時代から金属棒が登場し「ホワイト骨」の名で大流行します。やがて戦時体制が進むにつれて金属の配給が滞り、国策路線に沿うとの理由で木棒が優勢に。戦後は再び金棒が優勢となりますが、1980年代以降、メイドインジャパンの「匠の傘」がクローズアップされる中で木棒が再評価されて現代に至ります。

このように中棒の歴史は「木棒」と「金属棒」のせめぎ合いですが、当店扱いの職人傘でも両者は混在し、それぞれの傘のコンセプトにあった素材を職人がチョイスしています。たとえば、優雅で風情ある佇まいが求められる傘には「木棒」、強度やスリム&スタイリッシュといったファッション要素が大事な傘には「金属棒」と使い分けられています。

### 【取り扱い注意点】

中棒の宿命～それは開閉によって骨と衝突する箇所が必ずあることです。この緩衝のために多くの傘にセロテープが貼付してありますが、それは中棒の守護神ですので、剥がさずにそのままご使用ください。剥がれてしまった場合は、丁寧にリムーブして貼り直してください。⇒  [中棒の透明テープって何?\(P.29\)](#)



※中棒のあたり疵は製造工程上仕方がありません。透明テープには緩衝用の大事な役目が

木棒の傘の場合、傘の内部の湿潤状態が長期になった場合に、稀に膨らんでしまって『下ろくろ』が動かなくなることがあります。乾燥したら元通りになるのですが、症状が出た場合は「中棒交換」が必要になります。回避のために陰干しをしっかりとってください。

⇒  [修理のご依頼\(P.31\)](#)

### 【取り扱い注意点】

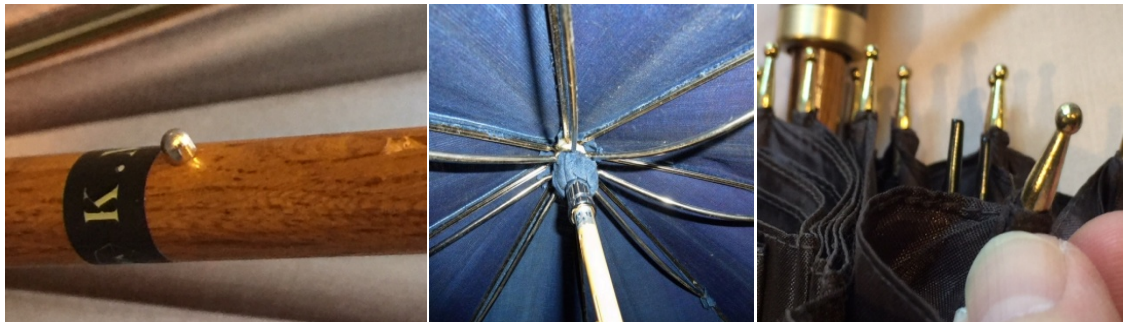
間違った水切りを繰り返すことで故障に繋がる場合があります。傘全体を降って水をきりますと中棒(特にハンドルとの接合部近辺)にストレスが蓄積していきます。知らない間に曲がったり、ハンドルの根元付近で突然折れることもありますので注意してください。

⇒  「傘の正しい水切り方法(P.18)」

折畳の傘では、必要以上の力で中棒を押し込んでいるうちに、微妙にずれが生じて動かなくなってしまう症状が出ます。この場合も「中棒交換」が必要です。これを回避するのは、できるだけ軽いアクションで中棒を押ししてしまうような習慣をつけてください

## 止め鉤(とめびょう)


中棒の上部にうちこんである「鉤(びょう)=太目のくぎ」は、下ろくろ(ランナー)の止り位置を定義するストッパーの役割があるもので、とても重要なものです。これがないと下ろくろは最上部まであがり、上下のろくろが膠着して閉じることが全くできなくなります。



▲下ろくろの止め位置に打ち込まれた「止めびょう」 ▲なくなると、このようになり傘が開閉不能に

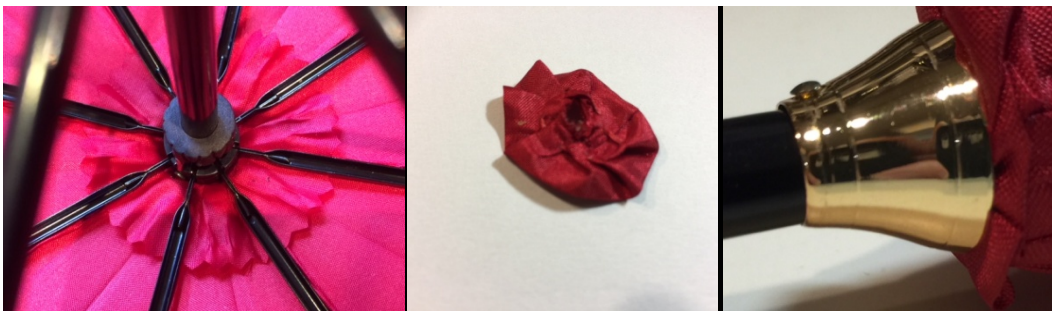
### 【対処方法】

止め鉤がとんでしまうと、**写真中央**のように上下のろくろが合体して閉じなくなります。その時は**写真右端**のように、骨の先端についている露先を全て外して下さい。

これで生地テンションが開放(リリース)されますので、その状態で傘を逆さにし、ひとりが傘本体を押さえて、もうひとりが膠着している下ろくろを引き上げてください。これで必ず閉じるようになります。そして、すみやかに修理の依頼に出してください。職場で止め鉤をうちこめば、元通り使用できるようになります。⇒  **修理のご依頼(P.31)**

## 天紙(てんがみ)菊座(きくざ)陣笠(じんがさ)

いずれも傘の上ろくろ周辺に配置された重要なパーツです。「天紙(てんがみ)」は内側からあてられている布で、骨と生地が直接擦れないようにする役目をします。「菊座(きくざ)」は外側からあてられている布、「陣笠(じんがさ)」は同じく外側からはめられている金具で、まず菊座をはめ陣笠を被せて小さなクギで陣笠を中棒にうちつけパッキングしています。そうして雨が入りこまないようにブロックする役目を担います。



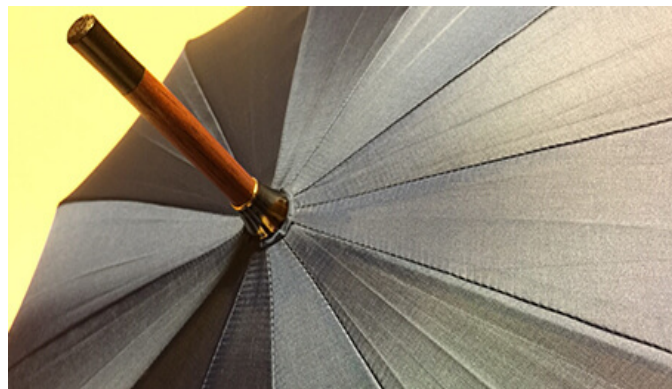
▲天紙(てんがみ)

▲菊座(きくざ)

▲陣笠(じんがさ)

傘の最も多い故障のひとつに「天漏り」があり、雨水が中棒をつたって手が濡れます。

その原因はこの天頂部のパーツまわりに傷みや割れ、ずれが生じていると考えられますので、大概是新しい陣笠に交換し、場合により接着剤で隙間をうめる方法も併用すれば改善します。「天漏り」の症状がでましたら、すぐに修理依頼をしてください




間違った水切りは「天漏り」に繋がります。傘をくるくる回しながら水滴をきる習慣のある方は、知らないうちに上ろくろ周辺のパーツに負担をかけていますので要注意です。

⇒  [傘の正しい水切り方法\(P.17\)](#)

## タッセル(房)

匠の傘のハンドルには「タッセル(房)」が巻いてあるものが多くあります。目的のひとつはファッションアクセントとしての価値で、位の高い傘のステイタスシンボルとされています。いまひとつの目的は、滑り止め。安定したグリップのポイントを探しやすくなり、手とハンドルが馴染みやすくなります。

紳士傘には先に木玉が二つついた房、婦人傘には編み房が採用されることが多く、それぞれハンドル部分に巻かれています。ここに指をからめると持ちやすくなります。もしタッセルが壊れた場合は修復は難しく、新しいものに交換修理となります。同じものが職場にあれば、お取り寄せできます。⇒  [修理のご依頼\(P.31\)](#)



### 【取り扱い注意点】

紐と勘違いし、はずして捨てないで下さい。編み房の場合は、指や爪でひっかかないようご注意ください。また接着剤でとめているわけではありませんので、緩んできたら時々ぎゅっと締めてください。はずれてしまった時は心齋橋みや竹のウェブサイトのコラムを参考に巻いてみて下さい。

⇒  「傘についてる紐(タッセル)ってなんのため？」

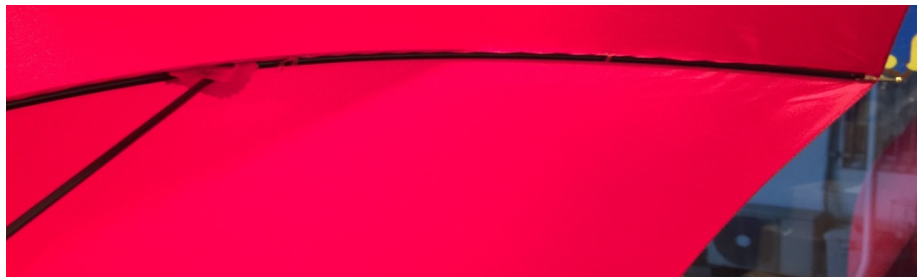


<https://www.kasaya.com/tatsujin/note005.htm>

<https://www.kasaya.com/>

## 親骨(おやぼね) 受骨(うけぼね) ダボ

「親骨(おやぼね)」は生地の縫いに添う長いほうの骨。「受骨(うけぼね)」は、下ろくろから親骨の中間部に向って下支えするようなかたちで位置する短いほうの支持骨です。この親骨と受骨の接している部分を「ダボ」といいます。骨の素材はカーボン、グラス等の繊維(ファイバー)系と従来のスチール系に大別されます。



最近では軽さを重視でカーボンの採用が増えましたが、スチールにも見た目のグレード感と、生地を張ったときに(カーボンと比べて)適度な引っ張り力が働くので、綺麗なフォルムに仕上げ易いというメリットがあり一長一短です。

職人達は傘の目指したコンセプトにあった骨素材を選んでいるようです。

一般的な傘は親骨 8 本が多く、10 本以上あるものを「多間傘(たけんがさ)」と呼び、匠の傘では 16 本骨のものが多くあります。多間傘を下手な職人が張ると、全体が膨みすぎて畳みづらくなるので、どこまで綺麗に張れるかが職人の腕の魅せどころです。

### 【取り扱い注意点】

『スチール骨』は断面がUの字になっているものが殆どですが、これは外側からの衝撃には案外弱いものです。屋外干して風に飛ばされた時や、傘をうっかり落として地面に直撃したときに、折れ曲がってしまう可能性が高いですから注意してください。

『カーボン骨』は曲がりに強く、骨がしなって頑張る分、逆にジョイント(ダボ)の箇所にも負荷がかかり、損傷するケースが多いです。カーボンだから丈夫、ということは決してありません。カーボンは「軽さの訴求」がテーマだとお考え下さい。

開けるときに袖などを引っ掛けたり、骨が絡まったまま無理に力を入れて曲がることもあります。開くときは軽く骨をさばいてウォーミングアップしてから開いてください。

骨は適合部材がある限りは、お修理が可能です。⇒  [修理のご依頼\(P.31\)](#)

## 小間(コマ)



生地に木型をあてて三角に裁断したものを「小間(コマ)」といいます。16 間(じゅうろっけん)というのはこの小間が 16 枚あることを示します。これをミシンで縫い合わせます。

縫い方には上(石突側)から縫う「関西縫い」と下(露先側)から縫う「関東縫い」があり、前者は簡単で量産できるのですが、後者は時間もかかるうえ高い技術も要します。しかし仕上がりが美しくなるのです。ハイクラスな匠の傘は関東縫いで作成されています。

皆さんは「傘のカバー」といえば傘を入れる袋を想像されるでしょうが、傘作りの職場で「傘のカバー」と呼ばれるのは、すべてのコマの縫い合わせが完成したものを指します。これを骨に載せて(合体させて)丁寧に糸で綴じていけば傘の本体が出来上がります。

### ■三角型の木型のおはなし

張り職人の「いのち」といえるのが「三角形の木型」です。まっ直線ではなく微妙にR(アーチ)=カーブがついているのが特色で、これによって傘骨に添った綺麗なフォルムを形成することが出来るのです。木型は骨と生地にあわせて、ひとつひとつ職人が手作りをします。同じ骨でも生地が違えば、別の型を作らねばなりません。

まず仮の木型で生地を緩めに裁断しカバーを作成、骨に載せます。いちどはずし縫製を解いて、木型を修正。再び裁断しカバーを載せます。これを納得がいくまで繰り返した末、本番で使える木型ができあがります。この行程に何日もかかることがあります。

しかも個々で「手癖」があるので、木型は他の職人では使えないそうです。匠の傘を手にした時、張り職人達の情熱と魂のこもった仕事を、ぜひ思い浮かべてみて下さい。

# 傘の心得とマナー

## 1.開く時(使用開始)

周囲に人がいないことを確認し、軽く骨をさばいて開いてください。急いで勢いよく開くことは、骨がねじれたり、くちネームや袖に引っかかり曲がったりする故障に繋がります。

## 2.開いて持つ時

すれ違う時、衝突して迷惑がかからないような気配りを心がけてください。できる限り体からはみ出す無駄な面積をおさえ、ローポジションで傘の大きさを有効活用しましょう。

## 3.水きりをする時

周囲に人がいないことを確認し、傘を開閉する要領で水をきってください。傘を勢いよく振ったり回しても思ったほど水滴はとれないうえに、傘の故障に確実に繋がります。

## 4.閉じてもち歩く時

傘の先が前後の人にあたらないよう「自分の歩幅の範囲内に石突がおさまる」ような歩き方がベストです。階段では後ろの人にあたらないよう、傘が体の前方でおさまるような位置にくるように持って下さい。生地部分を握ると手垢が付着し撥水寿命を縮めますのでハンドルを持ちましょう。

※傘の賢い巻き方は「傘のお手入れ」で解説します⇒[「傘のお手入れ」\(P.17\)](#)

※肘をまげず、ストレスなく持歩くことができるようデザインされたものを「ショートアンブレラ」として当店独自に開発し紹介販売しておりますので、ぜひご検討ください。

■マナー全般に関して……難しく考えたり、神経質になり過ぎる必要はありません。

大切なことはたったひとつ。日頃から街で傘をさし歩く人の姿をみて、「あんなことは迷惑になる、こんなことはして欲しくない」ということを心にクリップ留めしておくことです。

江戸しぐさのひとつに、すれ違いざまに傘をそっと外側に傾けあう「傘かしげ」があります。思い遣りの心で傘を扱える人は、あらゆる場面で相手の気持ちになって対応できる人。日々、傘と暮らす中で、素敵な人格を磨いていくことができます。

## 5.入店時、帰宅時(使用終了時)

傘も靴や帽子と同じ意識をもってください。クロークや鍵つき傘立てのない店、傘袋の用意のない店では、店外で水きりをした後、承諾をえて席まで持ち入るのがベストです。帰宅したら、水掛けや水きりをした後、骨に残留した水分をタオル等であらかじめ拭きとってください。傘たてに置く時は、他の傘と絡まないようネームバンドを巻きましょう。

傘の注意書きに「すぐに陰干しを」とありますが、実際にはほぼ無理でしょう。そこで、傘を一日じゅう持って歩き回ったと思えば、「就寝時の陰干し」で充分です。⇒6.就寝時へ

## 6.就寝時

就寝時に家の「空きスペース」をみつけ朝まで開いておくだけで、傘は元気になります。全開きにはできない時は、シャフト中間部に紙や布をあてて、大き目のクリップで挟みこむことで半開きにできますので、そのまま床において頂いても構いません。煩雑な手間はかかりません。基本的で簡単なお手入れが、傘の寿命を延ばします。

※具体的な干し方は「傘のお手入れ」で解説します⇒「傘のお手入れ」(P.17)

## 7.保管時

褪色(たいしょく※色あせ)や移行昇華(いこうしょうか※色移り)を防ぐために  
 ■日光や蛍光灯が直接あたらないところ■高温多湿(車中や屋外)にならないところ  
 を選んで保管してください。また天然樹ハンドルの「あくび＝曲がり戻ること」を防ぐために、下駄箱やカウンターの上に先端を支点として引っ掛ける保管方法もNGです。

## 8.強風時

気象予報士が「しっかりした大きめの傘をお持ち下さい」という時は長傘にしてください。台風で激しい風が予想される時は、傘は使えません。レインコートの使用が賢明です。

使用中に急に風が強まり壊れそうになった時は、半開きにして、下ろくろを手で持ってコントロールするような緊急措置をとってください。傘の頭を風にむかってさし、直接下から風をくらわれないようにして下さい。そして早く安全な屋内に退避してください。



## 傘のお手入れ(基本編) デイリーメンテナンス

匠の傘では、次の3つがメンテナンスの幹となります。

- 1■スプレーは変質や汚損を招くリスクがあります。「最終手段」と考えてください。
- 2■基本は水洗いです。洗剤を希釈し使用する場合は、表面の部分的な汚れ落としと考えてください。丸洗いや本格的な洗濯はできません。
- 3■大事なのはデイリーメンテナンス。誰でもできる基本編をマスターしてください。

匠の傘は、上質な生地を使っており、繊細な風合や色彩、巷に溢れる傘にはない佇まいが「いのち」です。このマニュアルでは、そういった価値を損なうことなく、無理なく実践していただける方法をプロ目線から解説してまいります。

### 水掛け

雨には不純物が沢山含まれています。これが生地に残留することで変色をおこす可能性があります。そこで使用後の水掛けを実行してみてください。かなり効果があります。

使用後に上水(水道水)を全体にかけて「雨」を「水」で洗い流すのです。

ホース掛けがベストですが、綺麗に洗ったペットボトルで代用してもいいでしょう。またお風呂場でシャワーをかけても結構です。汚れが蓄積してから洗剤であらうよりも、ずっとシンプルで簡単な手入れ方法です。特に明るめで繊細な色ほどこれをしたほうが良いでしょう。私のなくなった母も、永年実行して薄色の傘を美しくキープしておりました。



■使用後すぐにホースで水掛けがベスト ■または綺麗なペットボトルで代用 ■お風呂のシャワーで水をかけてもOK

## 水切り

※この内容は 2009 年 6 月 12 日NHK「生活ホットモーニング」でお話しをしたものです

間違った水切りで傘の寿命が著しく縮まることがあります。よくありがちな間違いとは…

×傘全体をふって水を切る ×傘をトントンと地面にあてて水を切る

傘のハンドルやシャフト部分に大きな負荷をあたえ、累積したストレスで割れたり折れたり曲がったり傘全体のバランスを崩す原因となるからです。

×傘を閉じてからクルクルっとまわして水を切る

上下のろくろや親骨：受骨のジョイントの部位に大きな負荷をあたえて、天頂から雨水が入り込んで中棒をつたう症状がでたり骨が損傷する恐れがあるからです。

いずれも思ったほど水は切れません。ではお薦めの水切り方法は…

## ◎傘を開閉して水を切る

周囲に人がいないことを見定め、斜め下方向の地面に向けて 静かに開閉して水を切ってください。中棒にそって「開いて、閉じる」すべての動きが 傘の使用法の想定内なので全体のバランスを崩すことがないからです。

傘に限らず、世の中のすべての道具には想定された動きと、想定外の動きがあります。大事に扱っているつもりなのに 知らず知らずのうちに傷めていることも多いものです。雨の日の大事なパートナーである傘にも思いやりをもって 接してあげてください



## 一夜干し

理想は「早めに陰干し」。できれば使ったらすぐ開いて干して下さい。しかし干せる環境が整わないというのが現実ではないでしょうか。そこで使用直後は(できれば水掛けをしてから)水分をよく払い、金属部を乾いたタオルで拭いて簡易的な手入れをしておき眠るときに朝までずっと開いておく「一夜干し」スタイルをお薦めしています。

ご家族が寝静まる時、家のどこかに必ず空スペースができます。生活時間帯では使えなかった場所も、就寝時なら朝まで使えます。そこでひと晩開いておきましょう。お手入れは何も難しいものではなく、乾くまで開いておくというシンプルな考えでいいのです。

ベストは全開きですが、それが出来ない場合、シャフトの中間に紙か布などをあてて、大きめのクリップで挟むと「下ろくろ」が留めたい場所にとまってくれるので、省スペースで半開き(中びらき)ができます。これならどこでも干せますね。



■夜の間の空きスペースで全開き干し ■中棒に当布(紙)をしてクリップで挟むと、省スペースでの半開き干しも可

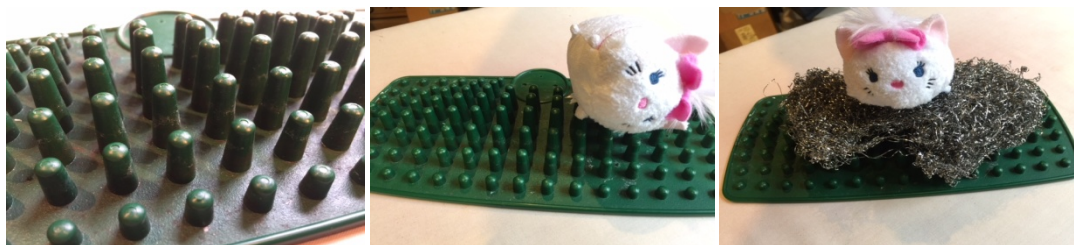
折畳傘の場合は、中棒を少し縮めれば自立干しも出来ます。緩衝材ぶちぶちを筒状にしたものを用意しておけば、メンテナンス時のハンドル保護に役立ちます。干す時の注意点は上ろくろ側(石突がある側)を下にしないこと。ちょうど漏斗(ろうと)のような形状になるので、中に残留した水が骨づたいに上ろくろに集結しサビる要因になります。



■折畳傘の自立干し ■筒状にしたぶちぶちがあればメンテに重宝 ■上ろくろを下にして干すとサビの原因に

## 傘巻き

傘を長持ちさせるという意味で「巻き方」も「お手入れ」の一貫としてとらえて下さい。  
生地の大敵は擦れ、手垢、手の脂です。親しみやすいイメージで解説しましょう。



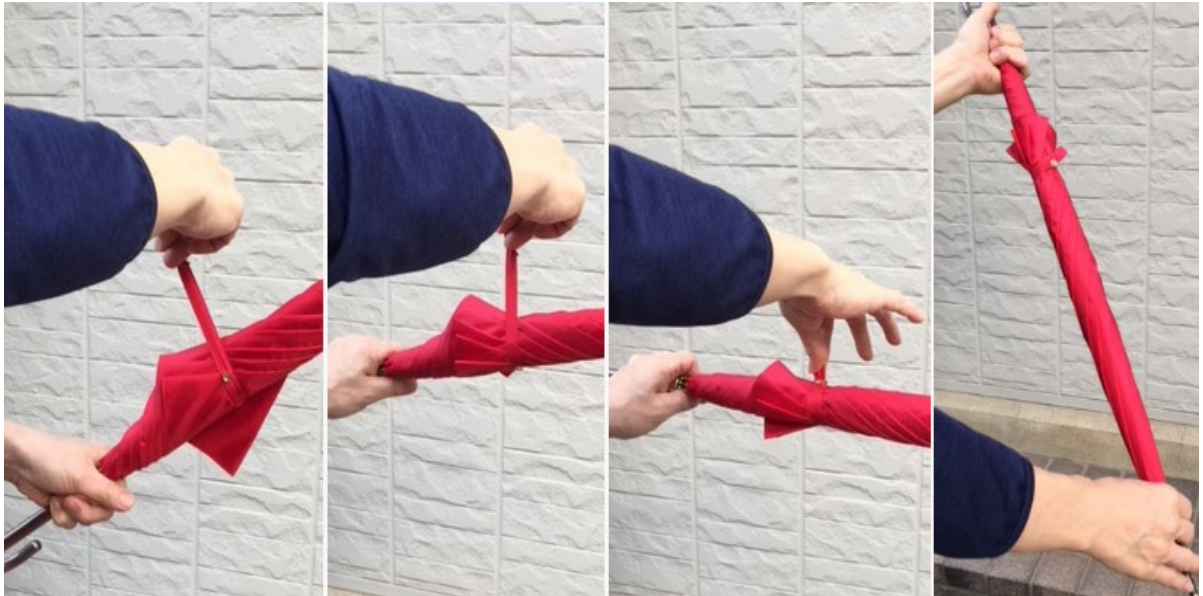
傘生地の表面は、蓮の葉状になっており、突起が沢山出ているような状態です。これによって雨がころころ転がって水をはじいています。ところが生地が擦れたり手の垢や脂が付着することで目詰まりを起こし、突起も倒れて寝てしまい、雨が転がらず貼り付いてしまうのです。

この症状は主にコマの折り山付近で起こりますが、これは巻くたびにここを手で擦るからなのです。濡れて汚れた生地を、濡れて汚れた手で擦り付ければ、生地に必ず手垢がついていきます。そこで、巻くときに生地に触れないスマート巻きにトライして下さい。

### 生地を極力触らず擦らない『スマート巻き』のススメ



- 【1】傘を閉じたら【2】片手で露先を束ねる(ネーム紐,たまどめのあるものは纏める)
- 【3】ネーム紐を向こう側からまわし【4】傘を少し斜めに倒しながらネームを引き上げる



**【5】**ネーム紐は軽く引き上げている程度で、強くは引っ張らない。傘本体を徐々に倒しながら、ゆっくり回すことで生地を束ねていく**【6】**時々ネーム紐の引っ張り具合に強弱をつけて、生地をほぐして整える**【7】**最後だけはネームをしっかり引っ張りボタンをとめる

※折畳傘は主に裏側にふれることになりますので、ここまで気をつかう必要はありません

中間部が若干膨らむこともあり、細い(スマートな)巻姿というわけではありません。しかし生地には殆ど触れないことで、手垢問題が解消される賢い(スマートな)巻き方です。

外出時はこの要領で纏めていただき、最終的に家でお仕舞いになるときは、乾かした生地を、綺麗な手でキッチリ巻けばよいのです。誰でもコツを覚えれば、すぐ出来ますので早速トライしてみてください。

傘にダメージを与えない「水切り」。汚れ予防として簡単に実践できる「水掛け」。眠っている間に無理なく陰干し「一夜干し」生地に触れない「スマート巻き」これらのデイリーメンテナンスを知り実践をしておけば、傘の健康寿命を延ばすことができます。

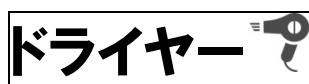


## 傘もローテーションが大事

ピッチャーとおなじで、複数の傘をローテーションしたほうがそれぞれの傘が長持ちすることも覚えておいてください。特に雨が続く時期は、乾く間もなくヘビーローテーションで使い続けると、傘に大きな負担をかけ寿命を縮めます。一本を休ませているあいだに、別の傘が使えるチームワークを築けば、それぞれが永く活躍できるというわけです。

## 傘のお手入れ(上級編)

上級編でご紹介いたします内容は、くらしの知恵として一般に知られたものですが、どのケースでも有効ということではなく、効果を 100% 確約することはできません。生地の変質や汚損、色や風合が変質するリスクも伴います。活用するかしないかは、御客様のご判断に委ねるお手入れ方法となりますので、どうぞご注意ください。



作業難易度 ■□□□□ 低

撥水を復活させる方法としてドライヤーが紹介されることが多いですが、経年して生地表面の撥水機能の繊維が倒れきってしまっただけからでは、なかなか効果が望めません。その状態から無理やり効果を得ようとすると、必要以上に熱をあてなければならず、結果として生地を傷めてしまうこととなります。実際に私も「経年した匠の傘」で何本も試してみましたが、残念ながら殆ど効果はありませんでした。

もしドライヤーをご使用いただくのであれば、毎回陰干しの後に少しずつデイリーメンテナンスとして実行されるほうが効果的です。要領は以下のとおりで比較的簡単です。

- 【1】 基本編の「陰干し」が完了して乾いた状態からスタートします。
- 【2】 テーブルの上に綺麗なクロスを敷き、その上で傘を逆さまにおいてください。
- 【3】 傘の裏側から、生地から 2cm 程度離して、主に折り山付近(コマの中央)を中心にゆっくりドライヤーの熱をあててください。これを全コマに施していただき、2回ほどローテーションをしたら、熱が冷めるまで待って閉じておしまいください。

これをおこなうことにより、撥水機能をつかさどる繊維に活力を与えることができます。予防的に毎回スプレーを少しずつかけられる方もおみえですが、それより毎回ドライヤーを用いて、こまめに裏から熱をあてられるほうがよろしいでしょう。

傘生地の表裏では異なった加工がされています。簡単にいうと表が撥水、裏が耐水(防水)のコーティング加工なのですが、傘生地は仕上げ行程で裏側からアイロンをすることを前提※としておりますので、裏から熱をあてることには殆ど支障がありません。

※遮光傘など例外はございます

本来はアイロンがオススメです、慣れない人がアイロンすると様々なリスクがあります。

- 温度設定を間違えると、生地が変色したり波打ったような変な皺がついてしまいます
- 掛け方や場所を間違えると、縫い糸が解けたり切れたり、骨が脆くなってしまいます
- 中心線がリセットされ、すべて消えてしまいますので、巻いたり畳みづらくなります

ドライヤーはアイロンほど熱くなりませんので、安全に熱をかけることができます。特別な道具や材料を必要としないので、簡単にトライすることができる手入れ方法です。

## 汚れおとし 作業難易度 中

洗い方を掲載している情報サイトがありますが、匠の傘に限っては ~~洗濯~~ 洗濯不可です。「表面の埃拭い、部分的な汚れ落とし」とお考えください。次の要領でお試し下さい。

- 【1】最初はタオルかブラシでやさしく「から拭き」をして、表面の塵や埃を払います。
- 【2】目に見えて汚れている箇所があれば、中性洗剤(おしゃれ着洗い等)をぬるま湯で10倍程度に希釈したものに、柔らかいスポンジにつけて、慎重かつ丁寧にポンポンとたたき洗いをしてみてください。広範囲はしないで下さい。あくまでもピンポイントです。  
※経年している場合や、成分の理由で汚れがおちないものもあります。
- 【3】しめしたタオルで、やさしく水ぶきをしてください
- 【4】最後は綺麗な水をかけて水洗いをして、その後 陰干しで乾燥をさせてください。

大事なことは【2】で除去できなかった汚れを、無理におとそうとしないことです。実際に綺麗な発色の傘を「珈琲」「醤油」「ハンドクリーム」で汚して験してみました、汚れをちゃんと落としきることは出来ませんでした。

汚れと似た症状に「褪色(たいしょく)」があります。これは経年劣化でいたしかたないものです、リカバリーすることは出来ません。外側ではなく、内側から付着する汚れの代表格が「サビ」です。これも残念ながらご紹介した方法では落とせません。サビがついてしまう前に「陰干し」等のお手入れで、骨の健康をキープすることが大切です。

「基本は水洗い」「洗濯ではなく『部分的な汚れ落とし』」というコンセプトで割り切って慎重に作業をされませんと、大事な傘が台無しになってしまうようです。洗うことよりも、汚れを回避する為デイリーメンテナンスをしっかりといただくことをお勧めいたします。



作業難易度



高

準備や手順は込み入っていますが、きちんと護って頂ければ、成功率は高まります。

#### \*下準備\*

■前項で紹介しました「乾拭き、水拭き、水洗い」をして、陰干しで乾かして下さい。

※洗剤は使用しないでください

■地面に置きますので、ハンドルを緩衝材等で保護してください

#### \*ご用意いただくもの\*

■災害対策マスク(汚染物質対応) ■サングラスまたはゴーグル(目の保護の為)

※スプレー使用量がかなり多くなります。吸引すると有害ですので、くれぐれもご注意ください。

■タオル ■スプレー ボンドコニシ防水スプレーF フッ素系撥水剤 300ml が無難です

※スコッチガード等、定評はあってもムラになりやすいスプレーがありますのでご注意ください

#### \*作業場所\*

■屋外 ■晴天 ■できるだけ風のない穏やかな日

※屋内での作業は重大な健康被害(呼吸困難など)を招きますので絶対に避けてください。

■周囲に迷惑のかからない広い場所…ベストは屋上

※マンションのベランダでも隣室のほうに風が流れることがあるので避けたほうが賢明です

- <1> 晴れた日を選んで屋外に傘を持ち出します。
- <2> 風のない日向がベストですが、風がある場合は傘の風上側にたって下さい。
- <3> 1 コマづつ、まんべんなく全体しっとりと濡れるようにスプレーをかけていきます。
- <4> 吹き付けると、ほどなくコマが乾いていきますが、液がかたまって残ったような箇所をタオルで軽く叩くようにのばして、できる限りムラのないようにします。
- <5> これを全コマで同じ作業をし、1 缶使い切るまで全体を濡らします。
- <6> しばらく日向で乾かしたあとは、屋内や軒下に移動させて陰干しにきりかえます
- <7> できれば 6 時間以上、そのまま乾燥させてください。
- <8> 乾燥しましたら、全体にドライヤーをあてていただくと、より撥水性能が増します

慎重になって中途半端になると却ってムラが出来易くなります。そのうえ効果も殆ど実感できません。しっかり全コマが濡れるまで噴霧してください。噴霧量が多いので災害用マスク(汚染物質対応用)が推奨です。





■30年経過して劣化した古い傘でも■スプレーで撥水性能が復活します■災害対策用のマスク等で完全防備を

生地は裁断される前段階で、専用の機械で堅牢な撥水/耐水加工がされていますので、神経質に何度もスプレーをかけすぎると逆効果です。日頃のお手入れは、基礎編でご紹介したデイリーメンテナンス+ドライヤーの域にとどめられるほうが賢明です。

また、こうしたスプレー吹き付けによる後加工で得られる「撥水力」はご購入当初のものとは加工レベルが違いますので、持続性には乏しいということも知っておいて下さい。今後、短いスパンで再び同じ作業が必要となっていくと思います。

スプレーには汚損リスク、吸引リスク、風合いが変質するリスク等が伴いますので、最終手段としてお考え下さい。職場でおこなう時は、生地職人から支給された特別なものを使用しているようですが、もしお客様サイドでご購入になれる類のものから選ぶとすれば、私の経験上 [ボンドコニシ] 防水スプレーF フッ素系 300ml が無難です。成分が強すぎるものは汚れやリムラになったり、ダメージをあたえますので要注意です。

以下の職場では(商品によりますが)プロによるスプレー加工を修理扱いとして受けることができます。作業に適した場所の確保が難しい方はどうぞご相談ください。お修理依頼窓口よりお申し付け頂ければ見積もりをいたします。⇒ [修理のご依頼\(P.31\)](#)

■スプレー加工修理を承ることのできるメーカー

前原光栄商店、小宮商店、榎田商店、ワカオ、モンブランヤマグチ

※上記のメーカーの傘でも生地の種類やご使用状態により承れない場合もあります  
※お取次ぎできますものは、当店でのご購入品に限ります。

# ハンドルの基礎知識

ハンドルがパックされている理由は、組立・保管・輸送行程などでの破損を防ぐためです。必ずはずして本体をご確認ください。パックの端を切る際、通常のはさみやカッターですと素材を傷つけることがありますので、先が尖っていない安全ハサミがあれば最適です。パックをはずさないとハンドル本来の味わいを感じとることができません。



## 寒竹(かんちく)

竹の地下茎を用います。春以降になると水分を多く含んでしまいがちですが、冬は生育がとまり、硬い状態なのでハンドルに最も適していますので、寒期に採取作業をします。それゆえ「寒竹(かんちく)」と呼ばれます。

一番の特徴は節が形成するアクセントで、これによってグリップが安定しやすく、巻いたタツセル(房)もずり落ちないメリットがあります。デメリットとしては節のコンディションの差があるので、手に当たるところの節が尖っている場合に持ちづらいことがあります。※心齋橋みや竹では、そういった場合は独自にサンディング仕上げをしています。

竹ハンドルはレトロな感覚で捉えられがちですが、ファッションアイテムとして高い評価をえております。今では「古めかしくて年配むき」という既成概念は消滅しておりますので、年齢を問わず、ぜひその醍醐味を堪能してください。



## えごの樹

鈴なりの白い花を咲かせる高木の落葉樹で「ちしゃの木」「ジャパニーズ・スノウベル」とも呼ばれています。堅く良質な木肌で変形も少なく、伝統民芸品にも採用されている上質の木材です。

樹皮を剥いたものをそのまま活かした白木調のものが「剥き(むき)えご」、バーナーで焼き色をつけアンティーク仕上げにしたものを「焼きえご」ウレタン加工で艶出しをしたものが「塗りえご」丁寧にブラウン塗装をしたものが「茶えご」と呼ばれています。

とても味わいのある素晴らしい素材ではありますが、楓(かえで)と比べて天然樹ゆえの個体差が大きく、ロットにより太い細い重い軽いの差が出やすい樹木です。

## 楓(かえで)



家具や楽器の材木として使用される高級部材で、品質も比較的安定しています。重量や全長などの個体差も殆ど生じません。また様々に塗装したりサイズカットしたりシェイプ加工したりという自由性も高く表現性も抜群なので、職人傘の世界でも広く使用されるとしてスタンダードなハンドルです。持った感触がとても良く、名前入れ加工も「手彫り」「機械彫り」とも綺麗に入ります。

表面がすべやかな分、タツセルが滑りやすいというデメリットがあります。シェイプ加工をしていないストレート形状のものは、時々タツセルを締め直しされることをお勧めします

## 籐(とう)



インドネシアなどから長い姿のまま輸入、半分程が職人により厳選され、国内で曲げ加工。傘ハンドルの中では硬い部類に入ります。繊維が細かく軽い素材で、尚且つ折れにくいという利点もあり、特に紳士傘に幅広く使われています。

ビジュアルの美しさで人気の高いハンドルですが、繊維がはっきり出ているので名前入れの「手彫り」「機械彫り」には向きません。籐ハンドルへの名入れは「プレート」もしくは「外付けのチャーム」のような様式になります。

## ヒッコリー



クルミ科の硬質な木材で スキーや工具の柄にも使用。手触りの素晴らしさは 他の木材の追随を許さない完成度で 傘ハンドルとしては最高級クラスです。出来栄えにはかなり個体差がありますが、総じて太くてしっかりした造りです。しかし、グリップが大きめで太めゆえに、逆に本体とのバランスが釣り合って、不思議に持ちやすく感じます。



## 欗(けやき)

古くから寺社仏閣建築にも使用された木材で、広葉樹の中でも最高ランクと呼ばれるもの。伐採してから歳月をかけて寝かせたものに塗装加工を施しています。傘ハンドルとしては珍しいもので希少価値もあります。表面は硬質で触りも良く、疵もつきにくい特徴があります、加工は宮大工さんが担っています。



## 藪(もち)の木

櫛や版木に用いられる材木で、サークル型やアニマルヘッドに手加工してハンドルに仕上げています。前項の「欗(けやき)」とともに、手掛けるのが宮大工さんゆえに入手できる木材ということもあり、非常に希少価値もあります。倒すなど衝撃には弱いので、その点は注意が必要です。

## 合成皮革(フェイクレザー)

手触りの優しさ、発色の美しさ、持ち心地の良さで人気の高いハンドル。タツセル(房)のとまりも大変良好なので、大きめの編房(ジャンボタツセル)との親和性がとても高いハンドルです。

反面、永年の使用にあたっては経年劣化による表面剥がれが出る場合があるので、そういった場合はハンドル交換のリクエストを頂ければ、喜んでメンテナンスを承ります。  
※合皮素材だけの張替えはできません、ハンドルユニットの総交換となります。

【豆知識】和傘の持ち手が真っ直ぐなのに、洋傘はJ字に曲がっているのはなぜでしょう、ちゃんと理由があります⇒ [「洋傘の持ち手はなぜ曲がっているのか？」](#)



<https://www.kasaya.com/tatsujin/note011.htm>

<https://www.kasaya.com/>

## 【付録】よくある質問 No.1～中棒の透明テープって何？

親骨と受骨が交わる(ダボ)は開閉のつど中棒にあたります。多くの長傘では、中棒に透明テープが貼ってありますが、それはこの接触による損傷を防ぐものです。

※職人がテープは必要ないと判断した場合は貼付していません。

なぜもっと違うテープにしないのでしょうか。まず、これ以上厚いものと、中棒が太くなりすぎて開閉不能になります。また、色ものと修理品のイメージになってしまいます。透明テープはシンプルですが、製造業者が頭をひねった末に選んだ究極の選択です。

もしはがれかけていたら貼り直しましょう。糊がはみ出しているようなら拭いて掃除しておきましょう。貼っていないとあたった部分は開閉のたびに 中棒に小さく細かな傷をつけていきます。見苦しいといって剥がさないでください。あなたの傘の守護神ですから

お客様で貼りなおさる時は市販のセロハンテープで充分ですが、おすすめは「超透明テープ」です。スコッチ 超透明テープ巾 18mm が使いやすいです。作業 Step は以下のとおり

- 【1】 あたり疵のある位置を測っておきます※これがターゲットポイントとなります。
- 【2】 以前に貼付してあったテープを剥がします。器具をつかうと中棒をいためることがあるので、爪などでゆっくり慎重に剥がします。
- 【3】 残った糊気を除去します。布粘着ガムテープを筒状にまるめたものでポンポンと中棒を軽く叩くような感じで糊を除去してください。※紙ではなく布ガムテープを用いてください。
- 【4】 Serp1 で計測したターゲットポイントを中心にテープを貼ります。中棒ときっちり垂直の位置になるように、注意深く貼ってください。
- 【5】 適当な位置でカットして、重なりがあまりないよう慎重に中棒に巻きつけます。重なるのはほんの数 mm だけにしてください。糊がつかないはさみを使用すると便利です。



■ターゲットポイントを計測 ■爪で慎重にリムーブ ■布ガムテで糊を除去 ■中棒に垂直に貼れば完成

# 困ったときは

初歩的なものや応急処置はお客様のDIYリカバリーでもいいのですが、正式な修理は基本的にお預かりして職場作業をすべきだと考えています。それは匠の傘が「道具」ではなく「作品」だからです。幾百という多くのパーツそれぞれにこだわりがあり、技が光り、職人達の魂と誇りが宿ります。作品の修復は、ぜひ作った職人にお任せ下さい。

そして心齋橋みや竹は、傘の生い立ちや健康を良く知る「かかりつけの医師」だと思ってください。傘が皆様の最良のパートナーとして永くおつきあい頂けますよう、対応部材のあります限りお修理をさせていただきますので、困ったときは、どうぞご相談ください。

⇒  [修理のご依頼\(P.31\)](#)

## <修理できる内容>

■職場に対応部材がある限り、承ることができます

◎石突、菊座、陣笠、天紙、止め鋏、骨(親骨、受骨)、たぼ、中棒(上はじき、下はじき)、ネーム、露先、ハンドル(玉留め)

■メーカーや傘によりご対応可能な場合もあります

○スプレー加工bv

■ご対応できる傘はごく一部に限られます

△張替え

■残念ながら承ることができません

×傘のクリーニング

×他店でご購入品

## <他店の修理をお受けできないには「理由」があります>

それはお客様が思われる以上に、修理は多大な手間と時間、責任がかかるからです。

まず修理前状態を詳細に記録します。これは修理過程で事故や破損がおこった場合に責任の所在を特定するためです。次に入念に各部位の作動を診断し、カルテを作成します。お客様が申請された箇所以外でも修理が必要なところがあるかもしれません。完了後も作業内容に責任をもちます。正常な使用にて短期間に同様の故障が出た場合、無償再修理をしております。

上記の診断・手配や職場との往復行程はお代金を頂戴しておりません。お修理代金の実費と所定の職人技術料を申し受けています。ですから、お修理は当店購入品に限らせて頂いております。

## お修理のご依頼/備忘録

---

■お名前

---

■メールアドレス

---

■ご連絡先（携帯番号推奨）

---

■ご購入番号（※ご購入時メールに記載）

---

■ご購入年月（※お買い上げカードに記載）                      年                      月

---

■お支払いのご希望       コンビニ払い       代金引換

---

■修理依頼内容をできるだけ詳しくお聞かせ下さい

---

メールまたはサポートダイヤルで「みや竹カスタマーサポート」までお知らせください

shop@kasaya.com      FAXの場合は06-6656-1704

**0120-43184-3**

フリーダイヤル しんさいばし - みや竹(平日 9:30~20:00) 土日祝休

※みや竹以外でのご購入品のお修理依頼はご容赦を願っております

<https://www.kasaya.com/>

MANUAL Ver. 18\_10.31.1

## Acknowledgement(謝辞)

この匠の傘マニュアルは以下の方々のご協力を得て編纂をいたしました。  
貴重な情報提供やアドバイスがなければ、とても完成していなかったでしょう。  
心より深く感謝を申し上げます。

洋傘タイムズ編集長 鈴木勝好氏  
日本橋 小宮商店 石山 洋氏  
前原光榮商店 前原慎史氏  
榎田商店 榎田洋一氏  
モンブランヤマグチ 山口君枝氏  
木崎商店 木崎博氏(手元職人/故人)  
佐伯工房 佐伯芳三郎氏(手元職人/故人)

## Notice

ここに掲載の情報は心齋橋みや竹で匠の傘をご購入になられた方々の為に編纂をしましたが  
当店以外でご購入の方も、どうぞ取り扱いの道標としてご活用ください。  
なお、これはすべての傘にあてはまるマニュアルではございません  
ビニール傘、特殊コーティング傘などは扱いやお手入れが異なりますのでご注意ください

## 著作権は心齋橋みや竹に帰属します

暮らしに役立つ知識も沢山含まれておりますので  
個人の方のブログやSNSへの部分的な情報引用は特に問題ではございませんが  
商用サイト、法人サイト、まとめサイト等への無断転載、無断引用はかたくお断りをいたします※  
※その場合は、必ず許諾をえていただきますよう御願ひ申し上げます。

内容につきましては、常に再検証と見直しをしておりますので  
新しい情報等が判明しましたら、随時アップデートをいたします。

なお、木材特性に関しましては私の知識の及ぶところではございませんので  
ハンドル職人からのヒアリングに加えまして  
一般的な木材辞典より一部引用をさせて頂きました。

<https://www.kasaya.com/>